

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 10 日

仕事の内容	老人福祉館運営事業（老人福祉施設貸出事業）		
担当部署・課長名	地域振興	課市民センター・清原市民センター 係	課長名 大法 努

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	2 - 2	-
【施策名】 高齢者保健福祉の推進	総合計画書 (ページ)	51	

予算名	款 3 民生費	項 1 社会福祉費	目 2 社会福祉施設費	事業 1 老人福祉館運営費
-----	---------	-----------	-------------	---------------

1 この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。 市内に居住する60歳以上の方及び、原則として市内に居住する60歳以上の方を持って組織する団体	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標） 市内に居住する60歳以上の方
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] ①福祉の増進 ②地域交流の活性化	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標） ①1日当たりの平均利用者数
	③ そのために何をしましたか。 ・市内に5施設ある老人福祉館（老人福祉センター（奈良橋）・向原・上北台・清原・南街）の貸出及び維持管理 ・南街は単独施設、他は市民センター内にある。貸出の受付・承認、施設の維持管理を行い高齢者に交流の場を提供している。夜間及び日曜の施設管理はシルバー人材センターに委託している。	→	③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標） ①延べ利用日数（全施設合計） ②延べ利用件数（全施設合計） ③延べ利用人数（全施設合計）

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	26,726 (1/1現在)	26,942 (1/1現在)	27,155 (1/1現在)	
	成果指標	②の数値	人	28	26	28	
	目 標	②の目標値	人	28	28	28	28
	目標設定の考え方						
活動指標	③の数値		①1,479 ②3,268 ③41,813	①1,479 ②3,105 ③38,652	①1,490 ②3,168 ③42,130		

3 経費	事業費（実績）		円	21,546,386	21,811,926	21,585,334	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外） 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。（退職手当組合負担金、共済費も含む。）
	財源	一般財源	円	21,507,746	21,762,566	21,540,604	
		特定財源	円	38,640	49,360	44,730	
		（うち受益者負担）	円	38,640	49,360	44,730	
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	人	0.3	0.3	0.3	
		所要人数（再任用）	人	1.2	1.2	1.2	
		職員人件費（再任用以外）	円	2,480,100	2,475,900	2,473,200	
職員人件費（再任用）	円	3,568,800	3,624,000	3,622,800			
事業費＋人件費		円	27,595,286	27,911,826	27,681,334		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期（開始年度）、何を目的に開始していますか。 老人福祉センター（S60）、南街（S45）、上北台（H5）、向原（H12）、清原（H18）の老人福祉館を各年度に開設。高齢者が余暇を楽しむ憩いの場の提供、福祉の増進、地域交流の活性化を目的としている。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 利用団体構成者の高齢化、老人クラブへの加入率は低下傾向にある（高齢介護課より）。一部の施設において、有料による夜間利用団体が増えてきている。

仕 事 の 内 容	老人福祉館運営事業（老人福祉施設貸出事業）		
担当部署・課長名	地域振興	課市民センター・清原市民センター 係	課長名 大法 努

5 市民 等 の 意 見	<p>この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について</p> <p>高齢の利用者からは、座るのが大変で、和室が使用しづらいとの意見があった。 1施設においては、机の要望があり、他施設より運搬し設置した。 駐車場のない施設があり、駐車場を求める声もあった。</p>
-----------------------------	--

6 市民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）	
	取組んだ	<p>③及び⑦</p> <p>【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）</p>
(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点		
年1回、清原市民センターにおいて地域の老人会により除草を行っている。他の市民センターにもこの様な活動を広げていくことにより、市民協働の促進が図れる。		

7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容	
	<p>利用者の高齢化、生活様式の変化などから、畳の大広間では利用しにくくなっている模様。椅子での対応が可能なフローリングに改修する必要があると思われる。施設の老朽化、風呂の給湯機器の不具合、空調機器の故障の頻度が増えてきているので機器更新の必要がある。 公共施設等総合管理計画に基づく市民センターの施設の長寿命化及び修繕計画を策定する必要がある。</p>	
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。	
故障した部分の修繕を実施している。平成31年度より実施される公共施設包括管理契約に向けて仕様書等の整理を行ない、今後、行なわれる施設の巡回点検等により提言される改善点や長期的な修繕計画により、大規模改修等を検討していきたい。		
(3)(2)を踏まえた今後の課題		
上記により、提言される大規模改修等の時期、費用（予算）が課題となる。また複合用途の施設が多く一斉休館日がない。工期、費用削減の為、全面休館するためには、代替施設の準備費用が必要となってくる。		

8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）		
	<p>老人福祉施設のあり方について検討する必要がある。公共施設の配置も含め、高齢者専用の施設でよいのか、畳で問題ないのか、必要な設備等も合わせて再検討が必要ではないかと考える。風呂利用者が固定化されており、対象年齢のごく一部の利用に限られている。公共施設の総量や適正配置を踏まえながら、風呂の廃止や別のサービスに切り替えるなど様々な手法の検討が必要である。</p>		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等		
防衛施設庁補助金を受けて建設されている施設が多く、安易な目的変更はできないが、施設の大規模改修、機器更新等のため、高齢介護課、財政課等の関係部署との調整が不可欠。			
(3)改革・改善案による期待成果			
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。			
成果	成果を向上させる。	経費	仕事の経費を増加させる。